# 旧石川保育所解体工事

図番	図名		図番	図名	
A — 1	解体工事特記仕樣書(1)	_	C — 1	鉄筋コンクリート構造配筋標準図(1)	_
2	解体工事特記仕樣書(2)	_	2	鉄筋コンクリート構造配筋標準図(2)	_
3	既存杭引抜工事特記仕様書	_	3	基礎伏図 杭伏図	1:100
4	付近見取図 配置図	1 : 200	4	屋根伏図	1:100
5	仕上表(1)	_	5	軸組図1	1:100
6	仕上表(2)	_	6	軸組図2	1:100
7	平面図	1:100	7	梁、柱、地中梁、基礎リスト	1:50
8	屋根伏図	1:100	8	小梁、壁、床版リスト、床版配筋図、雑配筋図	1:50
9	天井伏図	1:100	9	架構配筋図 雑配筋図	1:50
10	立面図	1:100	10	杭撤去範囲図	1 : 200
11	断面図	1:100			
12	矩計図 断面詳細図	1:10,30	E — 1	電気設備工事 特記仕様書	_
13	矩計図	1:30	2	分電盤結線図 弱電系統図	_
14	断面詳細図	1:30,50	3	幹線動力 コンセント設備	1:100
15	便所 玄関 玄関ホール 医務室 更衣室 踏込 平面詳細図 展開図	1 : 20, 30, 50	4	照明器具姿図	_
16	ほふく室 乳児室 乳児便所 沐浴室 平面詳細図 展開図	1:5,30,50	5	電灯設備	1:100
17	職員室 保育室 平面詳細図 展開図	1 : 50	6	弱電器具姿図	_
18	保育室 休憩室 教材室 平面詳細図 展開図	1:30,50	7	弱電設備	1:100
19	調理室 下処理場 食品庫 洗タク室 配膳室 便所2 平面詳細図 展開図	1:30,50	8	自動火災報知器設備	1:100
20	保育室 平面詳細図 便所 手洗所 配膳室 展開図	1 : 50			
21	遊ギ室 倉庫 平面詳細図 展開図	1:5,20,30,50			
22	遊ギ室 展開図	1 : 50	M — 1	機械設備 特記仕様書 撤去機器表	_
23	廊下 玄関 玄関ホール 展開図	1:100	2	衛生設備 屋外配管図	1:100
24	建具配置図	1:100	3	衛生設備 各種詳細図	1 : 50
25	建具表(1)	1 : 50	4	空調換気設備 平面図	1:100
26	建具表(2)	1 : 50	5	衛生設備 雨水配管図	1:100
27	建具表(3)	1 : 50			
28	家具配置図(造付)	1:100			
29	家具詳細図	1 : 20			
30	家具配置図(備品)	1 : 100			
31	部分詳細図	1: 20, 30, 50			
32	外構解体配置図	1:300			
33	外構解体詳細図(1)	図示			
34	外構解体詳細図(2)	図示			
35	外構解体詳細図(3)	図示			
36	外構解体詳細図(4)	図示			
37	求積図 求積表(参考図)	1 : 200			
38	新築工事特記仕様書1(参考図)	_			
39	新築工事特記仕様書2(参考図)	_			
40	仮設計画図 (参考図)	1 : 200			
41	解体後 造成図	1:300			

与謝野町 子育て応援課キタイ設計株式会社 京都支社

□ 図面及び特記仕様書に記載されていない事項は、すべて国土交通省大臣管房官庁営繕部監修「公共建築 工事標準仕様書令和4年版」(以下「標仕」という)及び「建築物解体工事共通仕様書・同解説令和 4年版」(以下「解体共仕」という)による。  * 特記世報書の取扱いは下記による。  7. 項目は番号に○印のついたものを適用する。	33 供給 蔵 か の が 対 性	本工事施工に際し、給水管、ガス管、電気引込み線の閉栓及び断線等、安全を確認した上、着手すること。なお、事前に関係管庁・供給会社等と協議を行うこと。電気・水道・ガス等の設備については、分岐境界までの解体撤去及びバルブ止めとする。工事の施工中に埋蔵文化財等を発見した場合は直ちに作業を中止し、その取扱いについて監督職員の指示を受けること。(図示の無い、工作物及び規管物等も含む)特記仕様書及び解体仕様書等に工法が記載されていない材料は、製造所・施工業者の技術・施工資料(関連団体の標準仕様)に基づくことを原則とし、監督員の承諾を得た後施工すること。受注者は、工事の進捗、材料の搬出入、天候等の状況を現場日誌に記入し、工事写真等を活付し、監督職員に随時報告すること。解体材・産業廃棄物の報告はマニュフェストシステムを採用し、処分地への搬入日時・処分地の写真等を報告書にまとめて監督職員に提出すること。受注者は、工事の内容に応じた建設工事保険等を工事目的物に付するものとする。工事車輌の出入りについては、危険防止に努めること。また、工事施工中は交通整整理員を常駐配置し、必要に応じて追加配置すること。 受注者は通精截等の違法運行防止を図るため、道路交通法を遵守する旨を記載した施工計画書を提出すること。 受注者は過精截等の違法運行防止を図るため、道路交通法を遵守する旨を記載した施工計画書を提出すること。 受注者は、「低騒音・低振動型建設機械の指定に関する規定(平成13年国土交通省告示第487号)」に基づき指定された建設機械(97ラペル)を使用すること。 受注者は、「低騒音・低振動型建設機械の指定に関する規定(平成13年国土交通省告示第487号)」に基づき指定された建設機械(97ラペル)を使用すること。 受注者は、「原騒音・低振動型建設機械の指定に関する規定(平成13年国土交通省告示第487号)」に基づき指定された建設機械の指定に関する規定(平成13年国土交通省告示第487号) カンステムに基づき「工事カルテ」を作成し、監督職員の確認を受けた後、(財) 日本建設情報総合センター(JAGIC)に提出することもに、センター発行の「工事カルテ受領書」の写しを監督職員に提出することもに、センター発行の「工事カルテ受領書」の写しを監督職員に提出することもに、センター発行の「工事力ルテ受領書」の写しを監督職員に提出すること。なお、工事請負代金が500万円以上のとおりである。 (1) 受注的登録データの規則限は、工事で対解的に変更に受けまる。(2) 実可時登録データの規則限は、工事で対解的に対解した工事車両を使用しないものとし、工事現場において、不法無線局を搭載した工事車両を使用しないものとし、工事現場において、不法無線局を搭載した工事車両を使用しないものとし、工事現場において、不法無線局を搭載していると疑わいに監督職員にときは、速やかに監督職員にその旨報告すること。	36 総合評価方式に 関する特記事項	(1) 甲は、VE提案の採否について、VE提案の受領後14日以内に書面により 通知するものとする。ただし、乙の同意を得たうえでこの期間を延長することができるものとする。 (2) 提出されたVE提案が適正と認められなかった場合の通知は、その理由を付して行うものとする。 (3) 甲は、VE提案による設計図書の変更を行う場合は、契約書第19条の2の規定に基づくものとする。 (4) 甲は、VE提案による設計図書の変更を行う場合は、契約書第19条の2の規定により請負代金額の変更を行うものとする。 (5) 前項の変更を行う場合においては、VE提案により請負代金額が低減すると見込まれる額の10分の5に相当する金額(以下VE管理費」という。)を削減しないものとする。 (6) VE提案が適正と認められた後、契約書第18条の条件変更が生じた場合において、甲がVE提案に対する変更案を求めた場合、乙はこれに応じるものとする。 (7) VE提案が適正と認められた後、契約書第18条の条件変更が生じた場合において、甲がVE提案に対する変更案を求めた場合、乙はこれに応じるものとする。 (7) VE提案が適正と認められた後、契約書第18条の条件変更が生じた場合、VE提案が適正と認められた後、契約書第18条の条件変更が生じた場合において、甲がVE提案に対する変更をからまる。ただし、双方の責に帰することができない事由(不可抗力や、予測することが不可能な事由等)により、工事の続行が不可能、または著しく工事低減額が減少した場合においては、リモ提案については、その内容が一般的に使用されている状態となった場合は、その後の工事において無償で使用できるものとする。ただし、工業所有権等の排他的権利を有する提案についてはこの限りではない。 7. 責任の所在 発注者がVE提案を適正と認め、設計図書の変更を行った場合においても、VE提案を行った受注者の責任が否定されるものではない。 1. 競争参加資格の確認申請時の技術提案内容の担保 受注者は、競争参加資格の確認申請時の技術提案内容の担保 受注者は、競争参加資格の確認申請時の技術提案内容の地工計画等に関する技術提案書の内容を満足する能工計画書を監督職員に提出しなければならない。なお、施工計画書において、技術提案書の内容を満足する能工計画書を監督職員に提出しなければならない。なお、施工計画書において、技術提案書の内容を満足する能工計画書を監督職員に提出しなければならない。なお、施工計画書において、技術提案書の内容を表りできる様式に整理すること。また、提案事項ごとに具体的な実施方法、履行の確認方法および確認時期について監督職員承諾を得るとともにその内容をあわせて施工計画書に記載すること。3. 配置技術者等	一般與案物 建設與案物 / / / / / / / / / / / / / / / / / / /	機械 ( ず
安全対策     本の他の事故防止について留意すること。(留意内容を文書化し、承諾を受けること)     工事施工に際し、危害防止・災害防止等については充分配慮し適切な措置を講ずること。     通行人等に危害を及ぼすことのないよう車両の出入りに留意し、所轄警察署・道路管理者等と協議の上、交通整理員を配置する等、保安上万全を期すこと。     (敷地外については、影響のある各所近隣へ、周知及び確認を行う事)     工事施工中、万一事故が発生した場合は、所要の措置を講ずると共に事故発生の原因及び経過、事故による被害の内容等について、速やかに監督職員に報告すること。     現場代理人は、受注者との直接的な雇用関係が確認できる資料を監督職員に提出すること。     建築材料等は、極力府内産品を選定することとし、製品等は特記されたものまたは同	③ 不法無線局の排除	発行の「工事カルテ受領書」の写しを監督職員に提出すること。なお、工事請負代金が500万円以上2.500万円未満の工事については、受注時の登録のみでよい。 提出の期限は以下のとおりである。 (1) 受注時登録データの提出期限は、契約締結後10日(土、日、祝日、年末年始を除く)以内とする。 (2) 完了時登録データの提出期限は、工事完了後10日(土、日、祝日、年末年始を除く)以内とする。 (3) 施工中に受注時登録データの内容に変更があった場合は、変更があった日から10日以内に変更データを提出しなければならない。 受注者は電波法を遵守し、不法無線局を搭載した工事車両を使用しないものとし、 工事現場において、不法無線局を搭載したいると疑わしい車両を発見したときは、	1 1	受注者は、競争参加資格の確認申請時に提出した施工計画等に関する技術提案 書(技術提案書の採否通知において一部不採用とした提案がある場合はこれを 除く。以下、「技術提案書」という。)に基づき、工事を履行しなければならない 2. 技術提案内容の施工計画書への反映 施工計画書の取り扱いは標仕のとおりであるが、受注者は技術提案書の内容を 満足する施工計画書を監督職員に提出しなければならない。なお、施工計画書 において、技術提案書の内容を一覧できる様式に整理すること。また、提案事 項ごとに具体的な実施方法、履行の確認方法および確認時期について監督職員 承諾を得るとともにその内容をあわせて施工計画書に記載すること。	44別管理廣東特	
						図面名称
						解体工事特記仕様書 (1)

39 エ 事 写 真	下記により撮影、整理し必要事項を記入の上、監督職員に提出する。	8 本設仮囲い	本設仮囲いは、再利用品で可とする。但し厚生労働省「経年仮設機材の管理について」 基発第223号の2平成8年4月4日を遵守する事。		○エ事期間中は、防音シート・防音パネル設置等必要な振動・騒音対策を十分講ずること。近隣住民の要望等も、誠意をもって対処し、必要な対策を講ずること。	(15) 飛散防止及び養生	作業区域は他の場所へのアスベスト汚染を防止する為、全周をブラスチックシート
	分類     規格     撮影枚数     提出部数     原版の大きさ       ・ポストカード判 着工前     **各現場毎 ・キャビネ判     **3 **35mm以上 ・2枚以上	9 防 音 対 策	地上部の解体時は、当該建物の周囲を屋根庇まで防音シートで囲む事。 解体作業用の開口部はこの限りでない。また、近隣や敷地内に対する騒音をできる	⑤ 塵 埃 防 止	座埃を発生する作業については、圧力ポンプによる散水を十分に行い、塵埃飛散防止 に努めること。 (アスペスト等の散去時は、環境測定による飛散防止の証明を行う事) 粉塵飛散防止の為、強風の時は工事を控えるように務める事。		(JIS(Z1702-1986)同等以上) (床 t : 0.15mm以上 2 枚重ね、壁・窓 t : 0.08mm以上) により、完全に隔離すると共に負圧をかける。 ○負圧作業場所には、HEPAフィルターを装備した負圧除塵装置を設置し、適切な運転無理を行うしました。 は様 される 8 0 両加工をが起こる ま
	※サービス判・ポストカード判 ※・4 (7.3)	10 防 護 棚	限り抑えるよう、所要の防音対策を講じること。 敷地内の通路、公衆用道路に面する外部足場には、「建設工事公衆災害防止対策	1 埋戻し及び盛土			転管理を行うと共に、捕集された粉塵処理を的確に行う事。 ①作業中のアスペスト粉塵の飛散を防止する為に、粉塵防止剤を十分に噴霧して作業を
	工事施工 : ※2枚/月以上 ※3 ※35mm以上 : *** *** *** *** *** *** *** *** ***		要網建築工事編(平成5年1月12日 建設省経建発第1号)」に基づき防護棚を設け ること。	2 74 = 0.5% to 1 0.00 TH	V福日被山客场加西 维本格=本周至(c型本地) / Proting 4/2-201   4 mm 4		行う。  ①作業区域内の設備、什器等は、区域外へ搬出して作業を行う。尚、搬出に際し移動困
	************************************	11 工事標示板等の 設 置	受注者は、工事現場に以下のものを設置すること。 1)工事標示板: W900*H1000程度 3箇所設置 2)協力依頼板:適宜設置	2 建設発生土の処理	※場外搬出適切処理 ・構内指示の場所に敷き均し(監督職員が承諾した良質土) ・構内指示の場所に堆積		難なものについては、上記のポリエチレンシート等で完全に覆う事。
	デジタルカメラによる撮影は、130万~200万画素程度とすること。	12 仮 置 場	3) 危険標示板:車両出入り口の他適宜設置 施工期間中、解体敷地内に廃棄物仮置き場は原則的に設けない。	(3) 撤去後の敷地整備	(・)建築物搬去後の敷地整備(整地の際には十分な転圧を行う)     解体工事終了時の敷地レベル:※現状地盤面 ① 図示した箇所は指定のレベル)     (・)	(16) 撤 去 方 法	国立研究開発法人建築研究所
(40) 電気保安技術者 (41) 図 面	※適用する ○適用しない ※工事着手時に請負者負担において、下記の図面を提出すること。	(13) 落下物·飛散物等	(ただし一定量は、監督職員と協議の上、承諾を得た場合はこの限りでない) 工事現場からの落下物・飛散物による危険防止は、万能鋼板・防音シート・養生金網	エ	整地後の仕上げ面は、砂利を均一に敷き詰める事。再生クラッシャラン C-40 T=60 雨水、土砂流出対策 : ※行う ・行わない		「建築物の改修・解体時における石綿含有建築用仕上塗材からの石綿粉じん飛散防止処理技術」 に示される下記撤去工法より選定する。
	※設計図 (A1版)及び縮小版 (A3版) を背貼製本の上、監督員に提出する。	による危険防止 (14) 洗 車 設 備	等によるものとし、請負者の責任において適宜設置すること。 洗車装置(高圧洗浄装置等)をエ事現場出口に適切に設け、泥土等が場外へ飛散する		塵埃飛散対策 : ※行う ・行わない ○場内整地後、レベル測定し図面にて提出のこと (完成図書として整理)		・水洗い工法       ・手工具ケレン工法
	建 築 ※ 部 ・ 部   建築、設備合本 ※3部 ・ 部 (大冊になる場合は分冊とする。表紙及び背	(15) 仮設排水	ことがないようにすること。 (他に泥土等の飛散が防げれば、この限りでない) 既設排水溝や排水管・会所等の撤去時には、仮設の排水設備を設け、排水上の支障が	事 4 山 留 め	・自立鋼矢板 ・ 切梁腹起鋼矢板 ・ 松矢板 自立鋼矢板計算書参照		<ul><li>・集じん装置併用手工具ケレン工法</li><li>・高圧水洗工法 (15MPa 以下、30~50MPa 程度)</li></ul>
	表紙には「施設名、工事名、年度、建築、 設備」別等を明朝体文字にて記入すること)	16 防犯灯設備	成成が小時で折から、云川守の版立時には、版成の折か成論と成り、折水工の文碑が 生じないようにすること。 適宜防犯灯の設置工事を行うこと。				・集じん装置付き高圧水洗工法(15MPa以下、30~50MPa程度) ・超高圧水洗工法(100MPa以上)
(42) 完成時の提出図書	※ 詳細は監督員の指示による。 提出の要否 ※要 ・否	17 騒音・振動測定設備	建物解体工事中、騒音・振動測定(3箇所)を行う事。その際仮囲い等に騒音・振動	5 4 排 水 基 準	<ul><li></li></ul>		・集じん装置付き超高圧水洗工法 (100MPa 以上) ・超音波ケレン工法
第 成 図	種類及び記入内容 ※公共建築工事標準仕様書 表 1.7.1による (完成時の状態) 作 成 方 法 ・手書きにより、縁付きトレーシングペーパーに鉛筆書きとする	18 工事用敷鉄板	表示板を設置し近隣周辺に周知を行う事。測定地点は監督職員と協議の上決定。 敷地内の連搬通路について、必要な場所は敷鉄板にて養生する事。	排	する事。 ・ 濁水、PH処理、ヒ素含有地下水について		・超音波ケレン工法(HEPA フィルター付き掃除機併用) ・剥離剤併用手工具ケレン工法
	<ul><li>CADにより作図し、緑付きトレーシングペーパーに出力とする (CADデーター貸与・・有・無)</li></ul>	9 交通誘導員	工事敷地の進入場所には、交通誘導員を配置して交通安全を計る事。	x	・ヒ素含有地下水については、汚染水処理施設を設置し法定水質以下に処理をして 原則として地下へ還元し、オーパーフロー分については河川に放流する事。		<ul> <li>- 剥離剤併用高圧水洗工法(30~50MPa 程度)</li> <li>- 剥離剤併用超高圧水洗工法(100MPa 以上)</li> </ul>
		3 1 - 般 事 項	1. 解体建物(解体する建物内外にある備品、機器類すべてを含む)、工作物、樹木等は	事	・その他の排水についても排水処理施設を設置し、適正に処理をして河川に 放流する事。		・ 剥離剤併用超音波ケレン工法 ・ ディスクグラインダーケレン工法
— 43-1) 完成写真	提出の要否 ※要 ・否 アルバム提出部数 ※ 3部 ・ 部	3 0 8 9 9	1. 序件を取り ディック 地域のアンフィーの の 間 にい、 なながり ソート とこう 、 エー の、 切 イッチ は 特記 なき 限り 、 地盤 面 下 も 含め解体 撤去すること。 廃材処分の廃材 投棄場所等については 受注者において 選定 し、 事前に 監督員に 報告	6 1 - 般 性 様	本特記仕様書及び図面による他、建設省監修日本建築センター発行「既存建築物の吹 付アスペスト粉塵飛散防止処理技術指針・同解説」、国土交通省大臣官房官庁営繕部監		・集じん装置付きディスクグラインダーケレン工法
43-2) 工事概要書	提出の要否※要・否		すると共に産業廃棄物処理法に基づき契約を締結のこと。	ア	修「公共建築改修工事標準仕様書 平成28年版」、厚生労働省「 建築物等の解体等の作		煙突撤去
般 组 現 況 図 面	提出 部 数 ※3部・ 部 現況を示す図面と現況に差異がある場合は監督職員の指示による。 (周辺の1977年 現場の10分割が20円では日本 20分割を10分割を10分割を10分割を10分割を10分割を10分割を10分割を1		(基礎下は捨てコンウリート、ララプルコンウリートを含むものとし、根切り土は埋戻しとする。) 2. 解体材を敷地内において焼却したり埋設することは一切認めない。また、ガラス破したがまないした。 ************************************	ス	業及び労働者が石綿にばく露するおそれがある建築物等における業務での労働者の石綿 ばく露防止に関する技術上の指針」による。		○ウオータージェット工法 除去時の飛散防止対策
45 施工条件等	(現況の確認で、現地の立会が必要な場合、発注者と協議を行うこと) 作業時間は8時から17時までとし、関係法令に従い、これを遵守すること。	体	片を残さないよう、特に注意すること。 3. 工事実施にあたっては、風向き等に留意し近隣に迷惑を及ぼさぬ様配慮し、必要あ	ズ ② 技 術 管 理			①作業場所の隔離 ②集じん・排気装置による排気
#	日曜・祝祭日は原則として、施工しないこと。 ただし、やむを得ず休日に作業をする場合は、監督職員の同意を得たうえで、騒音		る時は監督員と協議の上、工事の一時中止の措置を行うこと。風力測定器を設置 4. 解体作業により万一近隣建物及び工作物に損傷を与えたり、その構造機能を低下さ		建設業労働災害防止協会「建築物の解体等工事における石綿粉じんのばく露防止マニュ アル」を参考とする。		③セキュリティーゾーンの設置 ④負圧の維持
通	や振動を伴う作業を行なわないこと。 年末年始等、長期間現場の作業を休止する場合は、事前に緊急時の連絡体制につい	エ	せた場合は、受注者の責任において現況に復旧すること。また、搬入出時において 道路等に損傷を与えたり、汚した場合も受注者の責任において現状に復旧すること	1 .	厚生労働省「石綿飛散漏洩防止対策徹底マニュアル[2.02版]」を参考とする。 また、請負人はアスベスト撤去工事に際しては、特定化学物質等取扱い作業主任を専任		⑤作業開始時の漏えいの有無の確認 ⑥集じん・排気装置の変更時の漏えいの有無の確認
-	ての説明書を作成し、監督職員に提出すること。 近隣協議等により、休日・作業時間を変更する場合がある。		(復旧できない場合、等価で代償すること) 5. 工事中は粉塵の飛散を極力防止するため、工事施工状況に応じた能力を持った散水	撤	し、その指示に基づき施工の事。		⑦作業開始時、作業中断時の負圧の維持の確認
事 46 その他の注意事項	1 工事に際し、現場代理人は監督員及び近隣関係者と充分に協議し、近隣区域の日	争	設備を設置し、十分な散水を行うこと。 6. 解体後の敷地は、特記なき限り良質土(搬入土)にて敷きならし、整地すること。	3 下請業者等の選定	1). アスベスト搬去 アスベスト搬去 アスベスト搬去工事については、(財)日本建築センター、(財)建築保全センターの		(8)異常時の対応 (9)除去の完了の確認
	常活動上支障なきよう、又事故のないよう万全を期すこと。 2 工事工程については、日毎の計画を作成し、事前に監督員に提出し承認を受けて		盛土・整地レベルは、図示による。 7. アスベスト成形板については、関係法令等に基づき専門業者が所定の方法で解体撤		技術審査を受けた除去工法によるものとし、専門業者による責任施工とする。 〈参考業者〉		けい酸カルシウム板第1種撤去(防火ライト)
項	作業に入ること。 3 工事に先立ち建築基準法第15条第1項の規定による建築物除却届を所轄官庁に		去し、適切に処分すること。 8. 施工中に、図示部分以外にアスペスト含有建材と思われる建材等があった場合は監		・㈱ノザワ (tel:078-391-1651) ・明星工業㈱ (tel:06-6448-0455) ・㈱エスポワール (tel:06-6784-7200) ・協和産業㈱ (tel:052-903-0018)		○切断等による除去:隔離養生および常時温潤な状態とする ○切断等によらない除去:常時温潤な状態とする
	に提出すること。又、本工事に伴う諸官庁への届出一切を行うこと。		督員に直ちに報告し、その処理方法について協議すること。		・日本インシュレーション㈱ (tel:06-6633-7321)		一般事項
	4 土壌汚染防止法による届出を行う事。		<ol> <li>存置物については、関係法令に基づき適切に処分すること。なお、エアコンについてはフロンガスの回収を的確に行うこと。また、フロンガスの回収にあたっては総合を表する。</li> </ol>		・㈱エーアンドエーマテリアル (tel:06-6312-1765) ・ニチアス㈱ (tel:06-6252-1301)		⊙アスペスト搬去は、飛散防止剤がよく浸透した後に、スクレーパーやワイヤブラシ等により行う。
			量報告書を提出すること。 10. 解体に先立ち、PCB(微量PCB含)を使用した器具の有無を調査し、結果を報		2). 専門測定機関     特定計量証明事業者認定を許可登録しているものとし、かつ、都道府県労働局に		○除去後の残存アスペスト粉塵の飛散を防止する為、飛散防止剤を除去面に十分に吹付ける。
			告すること。また、PCBを使用した器具 (トランス等) については、監督員の指 示に従い指定された場所に搬出する、又は最終処分する。		に登録されている作業環境測定機関とする。計数分析は、第1種作業環境測定士 とする。		○除去したアスベストは、作業所において、その都度湿潤化させるなどの処理を講じた 上、十分に強度を有するブラスチック袋、又は、堅牢な容器に密閉するか、セメント
			11. 地下埋設物(排水管、ガス管等)は、特記を除き監督員の指示によりずが止め等の 処理を行うこと。なお、NTT配線及び引込み配線メータ一等の撤去、給水管、汚水		工事着手前に付近の状況を調査し、公害及び安全対策は工事竣工まで講じること。 作業内容については、監督職員と連絡調整し、問題無き様配慮する事。		等を用いて固化処理(10kg/cm2以上)を行い、シート等により二重梱包するものとする。  ①作業中の酸欠及び有機揮発性ガス対策等に留意する事。
			排水管、ガス管・高圧ガス等の切り離しボイラー廃止届け等、撤去に伴う申請については、各関係機関と協議の上、申請業務および必要な諸費用を含め本工事として受注	1 1 9 1	受注者は、アスペストの撤去及び処分に当たっては、本特配仕様書に基づき完全に履行 する事。関係法令を遵守し、労働安全及び環境汚染の防止に努める事。又、関係官庁へ		撤去したアスベスト及びアスベストの付着したポリエチレンシート・保護服等は、都道
			者が代行して行う。 12. 工事対象外との接合部及び取合い箇所の解体については、必ずカッター切を行い、問	(7) 施工計画書の提出	必要な届出を遅滞無く行う事。 受注者は、工事着工に先立ち、アスベスト撤去に伴う粉塵対策を盛込んだ施工計画書を	18 作業終了場所の清掃	府県知事認可の産業廃棄処理場 (特別管理型) で埋立て処理するものとする。 全ての作業が終了後、床等を高性能真空掃除機(HEPAフィルター付)で清掃を行う事。
			存のままとなる部分を破損・汚損しないこと。 13. 下請業者の選定にあたっては実績等を考慮して選定すること。	8 作業主任の選定	作成し、監督職員に提出し承諾を得る事。 受注者は、石綿作業主任者を選任し、アスベスト撤去作業についてはその指示のもとに	20 7スベスト含有建材 存置場所	アスベスト撤去及び処分後は、施工記録を作成し、報告書(3部)として提出する事。 旧石川保育所
			14. 工事時においてで、他工事(敷地造成)も並行して実施される予定であるため、 他工事と十分調整を行い、安全を期すること。	9 作業者の選定	行う事。 アスベストに関する安全衛生教育を受けた者とし、塵肺健康診断、アスベストに関する	13 taz-99171	○屋内 天井 ロックウール吸音板
		② 解 体 範 囲			特殊健康診断を6ヶ月以内に受診し異常の無かった者とする。 受注者は、本工事内現場作業員に対して、事前にアスベストに関する安全教育を実施し、		○屋内 天井 石綿珪酸カルシウム板     レベル 3       ○煙突 石綿パイプ     レベル 2
		2 解 14 配 囲	<ul><li>○建築物 : 撤去範囲(基礎まで)(※図示・)</li><li>○杭 : 撤去範囲(※解体する建築物すべて・搬去工法は杭先總が・ナヤナデン・工法(同等工法も可)にて撤去する事。</li></ul>	(1) アスベスト粉じん	十分に理解させる事。 作業区域内外の作業前、作業中、作業後のアスペスト粉塵濃度を測定し報告書を提出す	②1 分析によるアス ベスト含有の調査	○現場確認により追加調査が必要と判断された場合、監督職員と協議の上、現場から 試料を採取して分析調査を行い、その建材にアスペストが含まれているか否かを
				濃度測定		N I B R V B B	確認する。  ②採取試料の数 (必要と思われる箇所)
			(工作物・地中埋設物等含む) ・井戸 :撤去範囲(・上部構造のみ(砂詰めの上,周囲保護のこと))		各施工場所ごと 測定時期 測定名称 測定場所 測定点 備名		○分本収益付の数 ②安とぶわれる面別 )
			<ul><li>●埋設配管・桝:撤去範囲(※敷地内すべて ②図示 ・建物廻り3mの範囲)</li><li>●値裁 : 撤去範囲(※すべて撤去 ②図示 )</li></ul>				
			<ul><li>○既存付属品、備品:撤去範囲(※すべて撤去 ○図示 )</li><li>○工事区域内の設備機器・設備配管は、地中埋設のものを含めて、特記なき限り全て</li></ul>		測定4 負圧・除じん装置の排出口 出口吹き出し風速 im/sec 以下の位置名 1 点		
			撤去するものとする。  ①機器設備  ①照明器具  ①弱電設備  ①スイッチ類		知理作業後 (シート機芸前)   測定		
			<ul><li>○コンセント類 ・○配管設備 ・○衛生器具 ・○汚水槽</li><li>○衛生器具</li></ul>		加た / 加上 / 加上 / 加上 / 加川 / 加 / 加 / 加 / 加 / 加 / 加 / 加 / 加 /		
②① 仮 囲 い	図示によるほか、必要に応じ設置すること。また、1日の作業終了時には必ず戸締り をすること。 (関係者以外の立入や盗難等のおそれがある状態で放置しない事)		・ 浄		企業         別定時期         別定名称         別定場所         別定点         債者           処理作業前         別定1         新工区園園辺かつ敷地境界         4方向各1点         大気		
<b>全</b> 養 生	近隣の状況を判断し、それぞれ的確な養生を施すこと。 境界杭及び塀等周辺構造物に対しては、現況保存に留意し、適当な養生を施して、保		※正事中に新たに発見された構造物で処理が必要な物質等は、監督職員の指示に従い、 適切に処理すること。(新たに費用が見込まれる場合は、事前に協議を行うこと)		<u>級理作業後   測定2   施工図画周辺かつ敷地境界   4方向各1点   大気</u>   (注) 1. 各施工箇所ごとの室面積が50m2以下までは2点、300m2以下までは3点とする。		
(3) 整理清掃	存管理すること。 1日の作業終了後整理、清掃、養生を行うこと。工事車両による道路汚濁防止に努め	③ 解 体 工 法			300㎡を超えるものは、監督職員と協議する。 (注) 2. アスベスト撤去足場を、吹付又は天井復旧工事に利用する場合は、足場撤去後も空気測定を		
設 4 監督職員事務所の	るものとする。 (水道の使用は実費を負担し、関係する排水構の清掃も行う事) ・既存建物内の一部を使用		油圧破砕機、消音装置付低騒音ジャイアントブレーカー、コンブレッサー等を計画的 に使用し、振動、騒音防止に留意すること。	12 作業者用の更衣施設	行う事。 更衣施設及び洗身施設は、作業区域の出入口に接して、作業期間を通じて設置する。¬_		
規模及び仕上	1号 (10m <sup>2</sup> 程度) ①2号 (20m <sup>2</sup> 程度) ・3号 (35m <sup>2</sup> 程度) ・4号 (65m <sup>2</sup> 程度) ・5号 (100m <sup>2</sup> 程度) ・ m <sup>2</sup> 程度	(4) 振動・騒音対策		及び洗身施設	更衣施設は、通動服更衣スペースと保護服更衣スペースとを分離したものとする。 ー セキュリティーゾーン		
工事用水	- 設けない(但し、打合わせのできるスペースを確保する) 構内既存の施設 (・利用できる(※有債 ・無償) ・利用できない	かる 塩目/2 米	・無動対策: 低振動タイプの重機の使用等の配慮を行う  ※騒動対策: 低振動タイプの重機の使用等の配慮を行う  ※騒音規制法、振動規制法、京都府条例、与謝野町条例に準拠し、適切な騒音・振動対	13 作業場所の表示 14 呼吸用保護具及び	作業場所には、見易い所に「工事関係者以外の立入り禁止」の表示を設置する事。 アスベスト撤去作業員は、全身を覆う特殊作業服及び靴を使用し、作業終了後は、撤去		
⑥ 工事用電力	構内既存の施設 利用できる(※有償 ・無償) ・利用できない		※ 無き自然的は、球動が的は、ボ動的来的、子動却可不的に牛売し、廻りな服目・豚動的 策を行う。 搬去建築物の養生 :※行う ・行わない	保護服	したアスベストと同様、安全に処分する事。なお、除去作業時は電動ファン付き呼吸用 保護具又は同等以上の性能を有するものを使用すること。		
事り手摺先行足場	「手摺先行工法に関するガイドライン(厚生労働省平成21年4月策定)」に基づき設置すること。		塵埃飛散対策 : ※行う ・行わない				
	足場の種類 上記のガイドラインにおける「手摺先行工法による足場設置基準」に 基づく働きやすい 安心感のある足場		騒音・振動・風力測定 :※行う ・行わない ・ 京都府条例に伴う届出を関係機関に提出のこと				
							工事名称 設計図
							図面名称
							解体工事特記仕様書(2)
							—— <b>(株)</b> ー級建築士 第319755号 小川龍二 A-02

# PIC-UP工法特記仕様書

### 1. 工事概要

本工事は、PIC-UP工法による既存杭抜き地業である

油圧により稼働するチャック爪を有したケーシングを既存杭の先端まで回転貫入させ、このチャック爪により既存杭先端をつかみ込むことで 全摘出することが可能である。

これにより一般工法では難しいとされていた【中折れ杭】、【途中で破損した杭】等の杭も撤去することが可能である。

#### 2. 一般事項

- (1) 本工事に採用する工法はPIC-UP工法とし、本特記仕様書に準じることとする。
- (2) 本工事の施工業者は、杭抜き工事に精通した施工業者とし、PIC-UP工法の取り扱いが可能な指定施工会社とする。

### 3. 特記事項

- (1) 杭抜き図面と現場状況が異なる場合は、直ちに監督員と協議・承認のもと対応する事とする。
- (2) 使用するケーシング及び施工機については現場状況等を考慮した上で変更可能とする。

### 4. ケーシング仕様

- (1) 使用するケーシングは既存杭の外径よりも大きな内径を有するものを用いるものとする。
- (2) 使用するケーシングは下記の通りの構成とする。
  - ①チャッキングヘッド
  - ・油圧操作により任意に稼働可能であり、既存杭先端から抱え上げる機能を有するもの
  - ・先端部に掘削液や充填材の吐出穴を有するもの
  - ②中間ケーシング

地盤及び既存杭との縁を切るために挿入するものであり、チャッキングヘッドとの連結バー及び 送水管を有するもの

- ③上部ケーシング
- ・油圧スイベルを有するもの
- ・油圧稼動装置(油圧シリンダー)を有するもの

# 5 施工計画

工事に先立ち、施工計画を監督員に提出する。施工計画書は、次の事項を明記する。

- ① 工事内容(杭径・本数・本数等)
- ⑤ 各種作業の主たる従事者の組織表

② 工事期間及び工程

⑥ 建築請負業者の本工事責任者名⑦ 本工事施工業者名及び責任者名

- ③ 工事手順
- ④ 施工機械·使用部材

#### 6. 施工方法

本工法の標準的な施工方法を以下に示す。

- (1) 準備工
- 1) 杭中心位置を測量にて算出する。
- 2) 重機搬入路及び据え付け箇所にて、鉄板またはセメントを用いた浅層地盤改良を実施し重機足場を確保する。
- 3) 重機に使用機材(オーガー・ケーシング等)を装着する
- 4) チャック爪の稼働状況等の確認を行う。

#### (2)本施工

- 1) ユンボを用いて既存杭の杭頭出しを行う。
- 2) ケーシングにより、掘削液(水・ベントナイト等)を注入しながら所定の深度まで掘削を行う。ケーシングの鉛直方向を確認しながら、杭を傷めないように慎重に掘削する。
- 3) 所定の深度まで掘削した後、ケーシングと杭の縁がきれている(杭がケーシングと一緒に回転した)ことを確認する
- 4) チャック爪を突出させ、チャッキングを行う。チャック爪が全突出しない場合は、杭先端まで達していないと判断し再度チャッキングが可能となる深度まで掘削を行う。
- 5) ケーシングを引き上げることにより、ケーシングに内包された杭を引き抜く。 充填剤について、同時注入法を用いる場合は、ケーシング引き上げと同時に充填材を吐出させ充填を行う。
- 6) 地上までケーシングを引き上げた後、機械を旋回または移動させチャック爪を開放させる 状況に応じ大割機を用い杭をカットし、ケーシング内部から杭をすべて取り出す。
- 7)施工後の地盤を整地する。

# 7. 埋め戻し材仕様

埋め戻し材の仕様及び埋め戻し方式は下記の通りとする。

(1) 埋め戻し方式

同時注入法 · 後投入法

(2) 埋め戻し材種

貧配合セメントミルク

埋め戻し材は引抜き杭の体積以上の注入とする。

### 8. 引き抜き杭数量

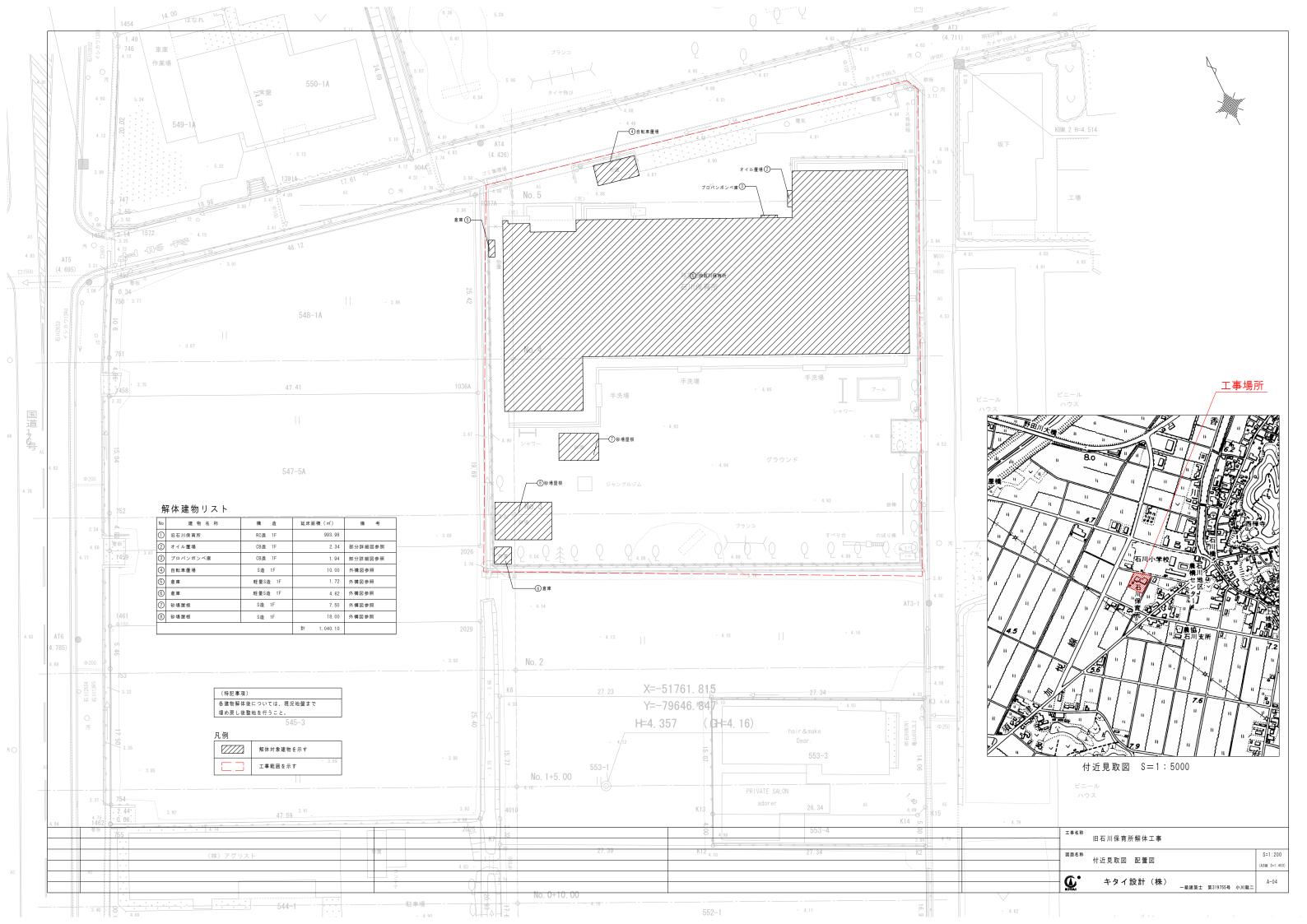
本工事における既存杭の杭種及び数量は設計図書の通りとする。

#### 9. 安全対策

本工事に際し、下記の通り安全対策を講じることとする。

- (1) 労働災害を防止するために、工事を指揮する作業責任者及び作業員は健康に留意し、規律ある正しい作業を行い、危険防止に対して常に注意する。
- (2)作業責任者が、作業に従事するものに、その順序、方法を周知させたうえ直接指揮のもとで行う。
- (3)安全通路の確保や作業敷地内への立ち入り禁止柵および表示等を行い、開口部や掘削孔軟弱な地盤の部分等の養生を行っておく。
- (4)悪天候時については厚生労働省が定める基準に基づき、直ちに作業を中止することとする。

4) ナヤック爪の稼働 状况 寺の惟 認を行う。	
	工事名称 旧石川保育所解体工事 設計図
	図面名称 既存杭引抜工事特記仕様書 S=-
	************************************



	外部包	生上げ表				アスベスト含有分析調査済み建材											
部位	下地	仕上げ	部位	下地	仕上げ	建材名	分析結果	建材名	分析結果	建材名	分析結り						
屋根		均しモルタル塗り t=10の上、シート防水 t=1.0 (非歩行)の上、 色付サンコート吹付 (断熱材:スタイロフォーム t=25)	テラス	_	モルタル表面強化仕上 t=30、段鼻タイル W=75 (タレ付) (土間コンクリート t=150、D10 @250、割栗石 t=150)	外壁 アクリル系吹付タイル	非含有	屋内 壁 アクリル系リシン吹付	非含有	煙突 石綿パイプ	みなし含む						
庇	-	均しモルタルコテ押え t=10の上、 合成ゴムシート防水 t=1.0 (非歩行)の上、色付サンコート吹付	犬走り	-	モルタル表面強化仕上 t=30 目地切 @3,500 (土間コンクリート t=150、D10 @250、割栗石 t=150)	屋内 床 長尺塩化ビニールシート	非含有	屋内 天井 ロックウール吸音板	含有								
軒天	_	コンクリート打放の上、アクリル系リシン吹付 一部、石綿ケイ酸カルシウム板 t=4.0の上(アスペスト含有レベル3)、アクリル系リシン吹付	樋	_	軒樋:塩ビ製角樋 W=120 H=90 t=1.7 0P塗 (EXP.J付) 竪樋:硬質塩ビ製パイプ φ100 0P塗	屋内 床 ノンスリップシート	非含有	屋内 天井 石こうボード	非含有								
外壁	_	コンクリート打放の上、アクリル系吹付タイル ヘッドカット仕上 一部、二丁掛タイル フランス張り	建具	-	アルミニウムアルマイト	屋内 壁 ビニールクロス	非含有	屋内 天井 化粧石こうボード	非含有								
巾木	_	モルタルコテ押え H=450	水切	_	アルミニウムアルマイト 後付タイプ	屋内 壁 石こうジョインボード	非含有	屋内 天井 杉杢化粧石こうボード	含有								
ポーチ	-	磁器タイル 150角 (土間コンクリート t=150、D10 @250 S.C、割栗石 t=150)	シーリング	_	不定形弾性シーリング材	屋内 壁 じゅらく吹付	非含有	屋内 天井 石綿珪酸カルシウム板	含有								
	内部位	士上 げ表					•										
		天井高							/ドボックス ンボックス								

min. Ar	天井高	_								g+			T.4		700	プラインドボックス カーテンボックス	/#- */
室名	床高 基準:FL+	· 床		下地		巾木・腰壁		高さ	下地	壁		下地	天井	7	廻	ボーデン ガーテン	備考
	2, 860	せっ器タイル 150角	_	С	テラゾーブロック t=25		_	170	С	せっこうジョイントボード t=12の上、 ビニルクロス張	_	w	せっこうボード t=9の上、 ロックウール吸音板 t=9 (アスベスト含有レベル3)	-	- 塩	- 製 一	
玄関	-150									こールグロス強			ロックソール収目似 [-5 (アスペスト音句レベル3)				
	2, 710	耐水ベニヤ板 t=5.5の上、 フローリング t=15	UC	W	木製巾木 t=25 腰壁:ピーリング t=5		OP 塗装品	100 785	W	せっこうジョイントボード t=12の上、 ビニルクロス張		W	せっこうボード t=9の上、 ロックウール吸音板 t=9(アスベスト含有レベル3)	- 1	.GS 塩	· 製 —	
玄関ホール	± 0																
更衣室	2, 500	耐水ベニヤ板 t=5.5の上、 フローリング t=15	UC	W	木製巾木 t=25		0 P	100	W	せっこうジョイントボード t=12の上、 ビニルクロス張	_	W	化粧せっこうボード t=9	- I	.GS 塩	- W	室名札
更孤重	±0																
医務室	2, 550	耐水ベニヤ板 t=5.5の上、 畳敷き t=55		W	畳寄せ		_	_	w	せっこうジョイントボード t=12の上、 ジュラク吹付	_	w	杉杢化粧せっこうボード t=9 (アスベスト含有レベル3)	- 1	.GS -	-   -	室名札
区 伤 王	+100																
9k 21	2, 680	耐水ベニヤ板 t=5.5の上、 フローリング t=15	UC	W	木製巾木 t=25		CL	150	W	せっこうジョイントボード t=12の上、 ジュラク吹付	_	W	杉杢化粧せっこうボード t=9 (アスベスト含有レベル3)	- I	.GS -		
踏込	±0																
ほふく室	2, 635	耐水ベニヤ板 t=5.5の上、 畳敷き t=55	_	W	畳寄せ		_	_	W	せっこうジョイントボード t=12の上、 掲示クロス張	-	W	化粧せっこうボード t=9	- 1	.GS 木	<b>a</b>	室名札
はかく王	+100	一部、フローリング t=15	UC														
Oj 1⊏ mba	2, 735	耐水ベニヤ板 t=5.5の上、 フローリング t=15	UC	W	木製巾木 t=25		0 P	100	W	せっこうジョイントボード t=12の上、 掲示クロス張	_	W	化粧せっこうボード t=9	- 1	.GS 木	<b>製</b> ○	室名札、黒板
乳児室	±0	一部、ノンスリップシート t=2.2														カーテン	煙突(アスベスト含有レベル2)
職員室	2, 735	耐水ベニヤ板 t=5.5の上、 フローリング t=15	UC	W	木製巾木 t=25		0 P	100	W	せっこうジョイントボード t=12の上、 ビニルクロス張	_	w	せっこうボード t=9の上、 ロックウール吸音板 t=9(アスベスト含有レベル3)	-	塩	· 製 O	室名札、黒板、行事黒板、掲示板
W.X.I	±0															カーテン	
	2, 735	フローリンク t=15 (共通)	UC	W	木製巾木 t=25		0 P	100	W	せっこうジョイントボード t=12の上、 掲示クロス張	-	W	化粧せっこうボード t=9	- I	.GS 木	<b>a</b>	室名札、黒板
	±0	一部、ノンスリップシート t=2.2 (共通)														カーテン	保育室(1)、(2)、(4)、(6) 煙突(アスベスト含有レベル2)
保育室		フローリング t=15の上、 ビニル床シート t=2.0 (保育室(1)のみ)															122 (112 112 112 112 112 112 112 112 112
		畳敷き (保育室(1)(2)のみ)															
遊戯室	3, 235~	耐水ベニヤ板 t=5.5の上、 フローリング t=15	UC	W	木製巾木 t=25		0 P	100	W	下部:有孔シナベニヤ t=6 上部:アクリル系リシン吹付	SOP	W	下部:化粧せっこうボード t=9 上部:アクリル系リシン吹付	S O P I	.GS 塩	· 製 〇	木製ルーパー、室名札
紅飙生	± 0															カーテンボックス 暗幕	
倉庫	2, 735	モルタルコテ押え t=30の上、 長尺塩化ビニル床シート t=2.2	-	С	木製巾木 t=25		0 P	100	W	ラワンベニヤ t=5.5	_	W	ラワンベニヤ t=4	- I	.GS 塩	:製 —	室名札
-27-	±0																
調理室	2, 900	発砲ポリスチレンボード t=50の上、 モルタル表面強化仕上 t=30	_	С	_		-	_	_	陶器質タイル 100角	_	С	石綿ケイ酸カルシウム板 t=4 (アスベスト含有レベル3)	V P I	.GS 塩	- 製 —	室名札、行事黒板
四生工	-170																
洗濯室	2, 550	モルタルコテ押え t=30の上、 ノンスリップシート t=2.2	-	С	モルタルコテ押え t=25		0 P	100	С	モルタルコテ押え t=25	V P	С	石綿ケイ酸カルシウム板 t=4 (アスベスト含有レベル3)	V P I	.GS 塩	- 4 製 —	室名札
洗濯室	-75																

共通	1.凡例		塗装凡例			
C:コンクリート直押エ下地	LGS:軽量鉄骨壁、天井下地	SOP:合成樹脂調合ペイント塗り	AE:アクリル樹脂エナメル塗り	DP:耐候性塗料塗り		
S:セルフレベリング下地	W:木製胴緣、木製軸組、木製床組	EP:合成樹脂エマルションペイント塗り	WP:木材保護塗料塗り	NAD:アクリル樹脂系非水分散形塗料塗り		
M:モルタルコテ押エ下地	GL:GL工法	EP-G:つや有り合成樹脂エマルションペイント塗り	FE:フタル酸樹脂エナメル塗り	OSV:オイルステインワニス塗り		
SUS:ステンレス	OA: フリーアクセスフロア	CL:クリヤーラッカー塗り	UC:2液形ポリウレタン樹脂ワニス塗り			
A L C:軽量気泡コンクリート	CC:シンダーコンクリートコテ押エ下地	OS:オイルステイン塗り	OP:油性調合ペイント塗り			
CB:コンクリートプロック		VE:塩化ビニル樹脂エナメル塗り	2-UE:2液形ポリウレタンエナメル塗り			

		工事名称 旧石川伊育所配体工事	
		図面名称 仕上表(1)	
		11 工表(1)	
		<b>     た</b>	A 05
		- マイ設計 (休) - 級建築士 第319755号 小川龍二	=   A-05

					T										1	プラインドボックス	T
室名	天井高 床高	床			巾木・腰壁				壁	١		天井			- 廻縁	フラインドボックス カーテンボックス ブラインド	
	基準:FL+			下地			高さ	下地			下地	石綿ケイ酸カルシウム板 t=4		下地		カーテン	
食品庫	2, 500	モルタル表面強化仕上 t=30		С	モルタルコテ押え t=25		_	_	モルタルコテ押え t=25	ΕP	С	(アスベスト含有レベル3)	ΕP	LGS	塩ビ製	_	室名札
	-170																煙突(アスベスト含有レベル2)
食品庫	2, 905	モルタル表面強化仕上 t=30		С	モルタルコテ押え t=25	V P	100	_	モルタルコテ押え t=25	ΕP	С	石綿ケイ酸カルシウム板 t=4 (アスベスト含有レベル3)	EΡ	LGS	塩ビ製	_	
(元 下処理場)	-170																
	2, 735	耐水ベニヤ板 t=5.5の上、 フローリング t=15	UС	W	木製巾木 t=25	0 P	100	C W	モルタルコテ押え t=25の上、 ビニルクロス張	ΕP	C W	化粧せっこうボード t=9	_	LGS	塩ビ製	_	室名札
配膳室	±0																
	2, 500	畳敷き t=55	_	W	豊寄せ	_	_	W	せっこうジョイントボード t=12の上、 ジュラク吹付	_	W	杉杢化粧せっこうボード t=9 (アスベスト含有レベル3)	_	LGS	_	_	室名札
休憩室	± 0								7 2 7 7 5 10			(7 / / / /					
	2, 735	モルタルコテ押え t=30の上、		С	木製巾木 t=25	0 P	100	W	ラワンベニヤ t=5.5	_	W	ラワンベニヤ t=4	_	LGS	塩ビ製	_	室名札
教材室	± 0	長尺塩化ビニル床シート t=2.2															
				14/	±4. ± ±27. 11			14/			\\\\			1.00	_		
押入(共通)	_	耐水ベニヤ板 t=5.5		W	雑巾摺り		_	W	ラワンベニヤ t=5.5	-	W	ラワンベニヤ t=4	-	LGS	_	_	
	(1) 2,500											石綿ケイ酸カルシウム板 t=4					
便所(1)・(2)	(2) 2, 800	モザイクタイル 25角		С	-		-	_	陶器質タイル 100角	_	С	(アスベスト含有レベル3)	V P	LGS	_	_	室名札
	-100																
沐浴室・乳児便所	2, 500	モルタルコテ押え t=30の上、 長尺塩化ビニル床シート t=2.2	_	С	_	_	-	_	陶器質タイル 100角	-	С	石綿ケイ酸カルシウム板 t=4 (アスベスト含有レベル3)	V P	LGS	-	_	
<b>沐冶</b> 至 · 孔兄便所																	
	2, 735	耐水ベニヤ板 t=5.5の上、 フローリング t=15	UC	W	木製巾木 t=25 腰壁:ピーリング t=5	○ P 塗装品	100 860	W	せっこうジョイントボード t=12の上、 下部:ビニルクロス張	_	W	下部: 化粧せっこうボード t=9 上部: 木毛板 t=25の上、	0 P	LGS	_	_	木製ルーバー
不逾	± 0	7			放至・ヒーケンク(こ)	至歌師	000		上部:アクリル系リシン吹付			アクリル系リシン吹付					
	2, 500	耐水ベニヤ板 t=5.5の上、			モルタルコテ押え t=25	V P			せっこうジョイントボード t=12の上、	_	W	梁型: ビニルクロス張 化粧せっこうボード t=9	_	LGS	_	_	
廊下手洗い	-,	ノンスリップシート t=2.2			木製巾木 t=25	0 P			ビニルクロス張			10/10/2017					
								1-									
		·				i	塗装り	 L 例		<u> </u>							
				0.0	D,A产维纳·和A。75.1 涂口	A F . 7 5 U . #4			DD . TIME 641 611								
: コンクリート直押エ下地		L G S :軽量鉄骨壁、天井下地			P:合成樹脂調合ペイント塗り	AE:アクリル樹		至り	DP:耐候性塗料塗り								
: セルフレベリング下地		W:木製胴縁、木製軸組、木製床組		EF		WP:木材保護塗			NAD:アクリル樹脂系非水分散形塗料塗り								
: モルタルコテ押エ下地		GL:GL工法		EF	-G:つや有り合成樹脂エマルションペイント塗り	FE:フタル酸樹	脂エナメル塗	<b>全り</b>	OSV:オイルステインワニス塗り								
US:ステンレス		OA: フリーアクセスフロア		CL	:クリヤーラッカー塗り	UC:2液形ポリ	ウレタン樹脂	旨ワニス塗り									
L C : 軽量気泡コンクリート		CC:シンダーコンクリートコテ押ェ	下地	0.8	:オイルステイン塗り	OP:油性調合べ	イント塗り										
B:コンクリートブロック				V E	:塩化ビニル樹脂エナメル塗り	2-UE:2液形	ポリウレタン	ンエナメル塗									
-		1			I				1	ı							
																工事名称	

図面名称 仕上表(2)

**● 本タイ設計 (株)** -級建築士 第319755号 小川能二

A-06

